

ONE LOVE 通信 40号

2009年5月6日発行

通信の発行が遅れてしまい、ごめんなさい。仕事を一つ終わらせると、次の仕事が待ち構えているという状態が続き、なかなか原稿を書くことができませんでした。支援してくださっている皆さまのためにも、定期的に発行しなくては!と思うのですが、それができず「本当にワンラブは大丈夫だろうか?」と思わせてしまったかもしれません…。お許しください。



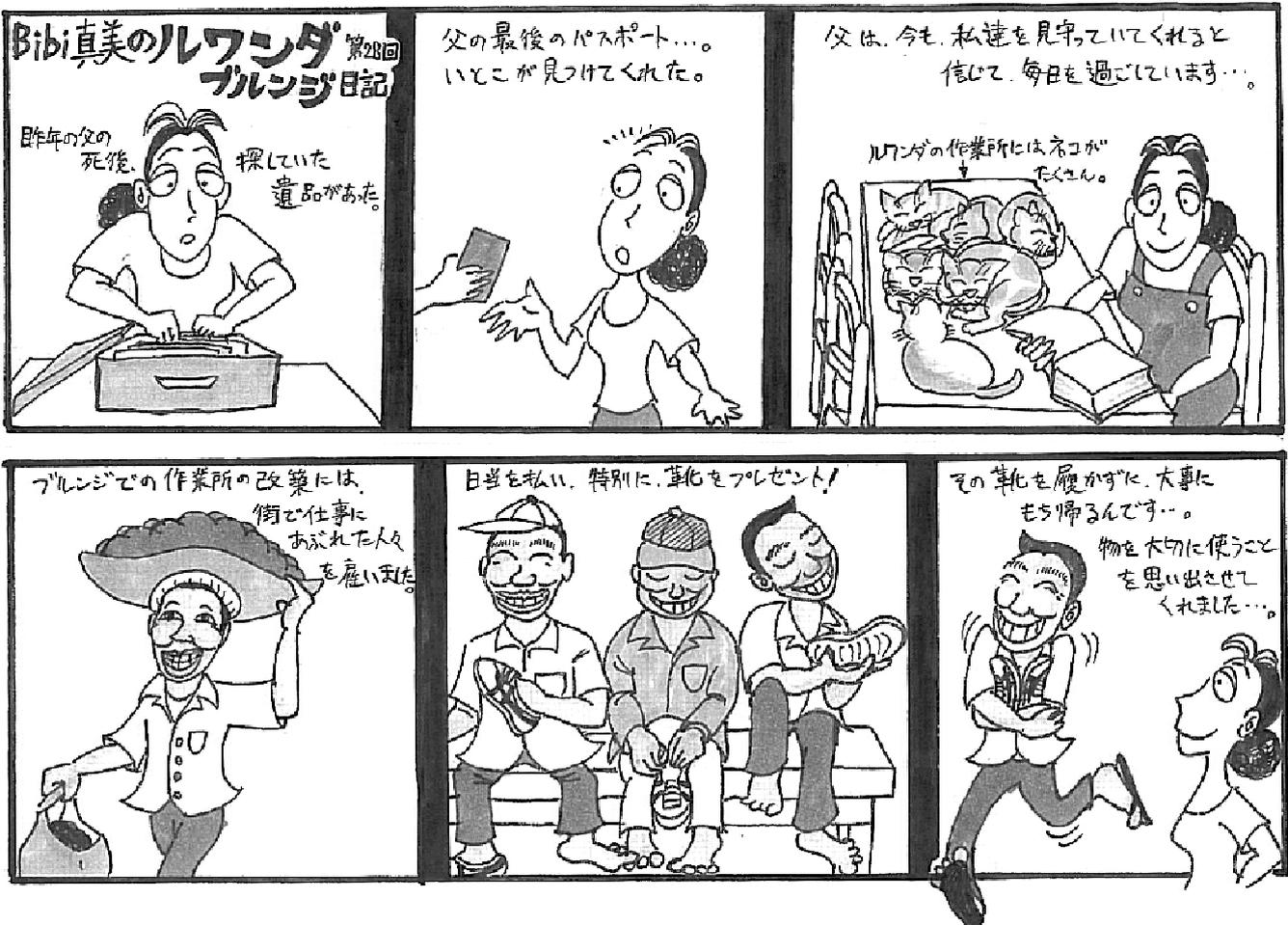
【国境を股にかけて、がんばるぞ!】

2008年は父の闘病や死、そしてその後の手続き、自分の人生の立て直しなどがあり、長い時間を日本で過ごしました。それがひと段落ついたころ、アメリカ経由でルワンダに向かいました。アメリカでの支援者を開拓しようと、ガテラの友人を頼って訪れたところはマイアミ。アフリカの海岸地方の気候に似たこの場所は、英語を話さない人たちもたくさん。看板などの表記もスペイン語が使われていたりします。英語が得意でない私は、それを見て、なんとなくほっとする。Tシャツだけで過ごせるというのありがたい。いろいろな人にルワンダの話をするけれど、知らない人が多い。大虐殺があったということも知らない。どこから説明をはじめたらよいのか...と悩むガテラと私。しかし何事も最初が肝心。時間をかけて説明をしていきます。

そしてその後はルワンダへ。1年以上留守にしてみました。久しぶりのルワンダは、とてもきれいになってい

ました。横断歩道ができていたり、24時間営業のスーパーマーケットができていたり。ルワンダの変化はこの後のコラムに書きますね。

私が日本にいる間に、ガテラは一人で奮闘していた模様。いろいろと大変だったと思う。特にスタッフの管理については、しんどかったに違いない。そのせいか、今までいたスタッフもクビになっていたり、顔を見たことのないスタッフがいたり。本来ならば、ずっと留守にしていたから、スタッフにきちんと挨拶をしなくてはいけないはず。それだけでなく挨拶好きのルワンダ人。私もそれに従わなくては...、と思うものの、結局ろくすっぽ挨拶する余裕もなく(私の心の中に)すぐに仕事に取り掛かりました。たまっていた書類、ガテラが一人で管理することのできなかったスタッフたちのミス、会計のチェックなどなど。そしてそうこうしているうちに、去年から本格的に動き出したブルンジの仕事の様子を見に行く。パトリックやエマールたちと一緒に、車に義足や材料を乗せて出発。鬼の居ぬ間に...とさぼるのは世界共通。ルワンダ・ブルンジの



スタッフ共、ああ、やっぱりだらけている…。どこに行ってもまじり釣り上げて、イライラしてしまう私。クールダウンしなくてはと思うけれど、それが簡単にはできないのですよ。とにかくブルンジではたくさんの障害者たちが義足の出来上がるのを待っているの、右から左へと作業をこなしていく。



<ガテラ・パトリック・エマ プレ、ブルンジ作業所にて>

そして約1週間後、再びルワンダへ向かう。今度はルワンダのチェックである。義足の材料の在庫をチェック。うう、もう材料がほとんどない…。すぐ買い出しにいかなくては。しかしルワンダでは義足の材料が手に入らない。いつもケニアのナイロビまで買い出しに行っている。急いで飛行機のチケットを買い、ナイロビへ。ナイロビにはガテラの昔からの友人のビッグボスコが待っていてくれました。彼に車を運転してもらって、あちこちの義肢材料を買いそろえる。本体となるプラスチックのパイプや、義足の関節部品、下につける足など。これらの材料は、いつも買っているところがあるので、そこに注文して、出発までに輸出のための書類と共に、揃えておいてもらう。見つかりそうで、なかなか見つからないのが、鋳や靴を作るための小さな材料。下町の小さなお店を一軒一軒訪ねていかなくてはいけない。下町には悪事を働く奴らも多いので、カバンをしっかり抱え、緊張しながら歩くのである。そう考えると、ルワンダは治安がいいなあ…。結局一番探していた材料は見つからず。ナイロビでも約1週間。材料を買い終わったら、さっさとルワンダへ。

ルワンダでまたもろもろの仕事を終わらせて、さらにブルンジへ。全くもう、ブルンジの仕事が忙しく、そして思ったように進まないの、1週間の予定がじりじりと延びる。しかもブルンジの事務所にはインターネットをまだつなげていないので、ルワンダや日本との連絡もうまく取れず、それがまたストレスの原因となるのである。インターネットが使えないガテラは、少々高くても電話を使う。ルワンダにいる時はブルンジで、ブルンジにいる時はルワンダでなんかしら問題が起き、それを解決していかなくてはいけないガテラもストレスづけである。

と、こんな調子で2009年に入ってから、1週間、または10日前後で、国境を股にしている。パスポートにも国境越えのスタンプだらけである。以前はそのスタンプの数を喜んでいたが、最近ではその感動もなくなってしまっ

た…。しかもほとんどがルワンダ・ブルンジである。国境の係員ともすっかり知り合いになってしまった。係員は私の片言のルワンダ語を聞いて喜んでくれるが、こっちは「そんなことどうでもいいから、さっさとハンコを押してくれ」とこれまた無感動である。

しかしまあ、こうやって忙しくしていただけるということは、とてもありがたいことです。願わくば、それが義足を作らなくてはいけない障害者の数が多くなければ、と言うことです。でも当分は忙しい日々が続きそうです。一人でも多くのルワンダとブルンジの障害者が義足を歩いて歩けるよう、頭に霞がかかった状態で、今日もなんとかやっています。



<順番待ちの患者さん達>

去年父の死後、遺品を片づけていた。そして探していたものがある。それがどうしても見つからなかった。まさか父があの世界に持って行ったはずもなく、たんすの引き出しをひっかきまわしていた。ある日、いとこが私のいない時に片づけを手伝ってくれた。そして「おねえ、これ」と父の最後のパスポートを渡してくれた。いとこは私がそれを探していたということは知らない。でも今目の前にある。このパスポートは、父が最後にルワンダに来た時に使っていたものである。ページに押されているのは、日本の出入国、ルワンダの出入国のハンコ、そしてゴリラのマークのあるルワンダのビザだけである。

今、私はそれをいつも持ち歩いているカバンの中に入れて、どこに行くにも一緒に歩いている。心配をかけたまま旅立たせてしまった父。今も心配しながら、でもきっと見守ってくれると信じて、私は毎日を過ごしています。私は父を亡くしてやっと、父の存在の大きさを知りました。

【変わっていくルワンダ】

1年の間に、ルワンダはたくさん変わりました。しばらく留守にしていたので、今ルワンダがとても新鮮に見えます。そんな変化のいくつかを紹介します。

公衆トイレ

町の中心にロータリーがあり、そこはいつもきれいに手入れされています。きちんと植えられた花、噴水。それを見ながら、ロータリーをぐるっと回った外れに、公衆トイレができました。実は私はまだ一度も利用をしたことがな

いのですが、有料のトイレです。入口の前には料金徴収兼お掃除の人が待機しております。きれい好きなルワンダ人のこと、多分このトイレは、かなりきれいだと思います。旅行でルワンダを訪れた人。困った時はこのトイレに駆け込んでください。

横断歩道

道路のあちこちに横断歩道を見かけるようになりました。今まではみんな、好き勝手なところを渡っていたのですが、生真面目なルワンダ人。きちんと横断歩道を渡りません。車もきちんと止まり。ちなみによく訪れるケニアでは、横断歩道のようなものはあるものの、ペイントがすでに薄れてしまっているためか、みんなそれぞれ勝手に渡っています。

加工食品

ルワンダは比較的食糧がたくさんあります。たくさんあっても、保存の方法がなかったため、今までは腐らせてしまったものも少なくないとか。

ルワンダ人がよく食べるウガリと言う食べ物。キャッサバ芋を粉にしたものを、熱湯でこねて食べます。これは今までキヨ売りで単にビニールに入れられて売って売りました。それが日本の小麦粉のようにきちんとパッケージされてスーパーに並んでいます。試しに私も買ってみました。しかし...。う～ん、味としては市場で売られている量り売りのウガリの方がおいしいなあ。ルワンダ人からの評判もいま一つのようなのである。何と云っても、満身力を込めてこねてもダマダマができてしまうのである。

それからもう一つ。これもルワンダ人が大好きなイビシンボと言う豆である。これがレトルト状のパッケージに入って売られている。硬く乾燥したこの豆を煮るのは結構時間がかかる。一日の時間がたっぷりある人でないとなかなかおいしく出来上がらない。それがまあ、あら便利。温めるだけでおいしいイビシンボ。多分働くルワンダ人女性もどんどん増えてきているのであろう。そんな女性のためのイビシンボである。しかしこちらもルワンダ人にはいま一つ評判悪い。ガテラにも食べてもらったが、おいしいともまずいとも言わない。



<左:パッケージされたウガリ。1KGに梱包されています。

右:IBISHVIMBO(豆)のレトルトバージョン!!

写真では見えませんが、右下に made in Rwanda の文字が。こういった物の需要に、ルワンダの発展を感じます。>

区画整理

今まで道路を挟んだ向かい側には、小さなキオスク(日用品を売るお店) スタッフが仕事帰りに立ち寄った飲み屋、その他人々の住む家がありました。それが市の区画整理ですっきり無くなってしまいました。全くのさら地です。砂糖を切らしてしまったからちょっと買いに行く場所、そしてスタッフも仕事の愚痴を言う場所を失ってしまいました。ルワンダでは街づくりのため、あちこちで区画整理を始めています。今まで見慣れていたものがすっかり無くなるということは寂しいことです。しかもこの区画整理!問題も山だらけ。ブルドーザーで整地している時に、電話の線を切ってしまう、おかげでワンラブは電話なし、インターネットなしの状態。それなのにインターネット料金の請求書が来る!いい加減にしてください。

心の癒し、猫たち

以前もお伝えしたと思いますが、ワンラブは猫がいっぱい。捨て猫を拾ったら、どんどん家族を増やして行って、今では何匹いるのか分からない。全ての猫たちの母「ちーちゃん」はこれで何度目の出産となったのか分からないけど、現在育児中。一時は育児ノイローゼで育児放棄をした事もあったけれど、今は良い母親を務めています。そのちーちゃんのいちばん最初の子供だった「のりちゃん」が車にひかれて死んでしまいました。どこか人間ぼくて、低い声で「な～お」と鳴き、人が読んでいる書類の上に座り込んで、のどを「がーごん」鳴らし始める猫でした。人であろうと、動物であろうと、愛しいものを亡くすことは辛いです。ボス猫として、たくさんの雌猫を従えていた「デス」と言う猫も、どこかにいなくなってしまいました。世代交代でしょうか。

24時間スーパー

ルワンダに24時間営業のスーパーができました。ナイロビにもたくさんあるそのスーパー。品ぞろえも豊富なようです。しかし公衆トイレ同様、こちら私はまだ利用したことがありません。本当は行きたくてたまらないのだけど、いつも時間がなく、あるいは疲れきって行く気力がなく、実現しておりません。しかもこのスーパーに行くためには有料の駐車場に車を止めなくてははいけない。それはなんだかもったいないなあ。ナイロビに住んでいて、そのスーパー事情をよく知っている人から聞いた。「値段がナイロビの7倍もするのよね!」ひゃ～!びっくり。もちろん全てが7倍ではないだろうけれど、それにしても高すぎる!ちなみにナイロビで、私もそのスーパーをよく利用していた。そしてこの間ナイロビを訪れた時、そのスーパーが火事になって、多くの犠牲者を出してしまいました。ケニアでは騒ぎがあると、店の品物を略奪する人も多く、スーパーの経営者はそれを恐れ、火事になったスーパーの入り口を閉めてしまったそうです。犠牲者のほとんどは、中に閉じ込められた人たち。何ともひどい話です。

そしてその24時間スーパーに対抗して「シンバマーケット」というスーパーもできた。シンバとはスワヒリ語でライオン。そのスーパーの前には、ちょっと変な顔をしたライオンの像がで～んと置かれています。



今号の患者さん

今月は患者さんではありません。

ブルンジで義肢製作所を改築した時に手伝ってくれた人たちの話です。

街角には仕事にあぶれてしまった人たちがたくさんいます。ブルンジの事務所の裏庭改造工事の時、そんな人たちを集めました。みんな久しぶりの仕事です。張り切りすぎて、全くうるさいくらいです。必ず一人、お祭り要員がいます。一人でおちゃらけて、みんなを笑わせ(と言うより、自分がオチを言う前に笑ってしまっている...) 大きな声で怪しげな歌を歌います。それを聞いて、他の人たちも歌います。一人パソコンを前に書類作りをしている私は、それを聞いてイライラしてしまうのですが、怒鳴るのも大人げない。ひたすら我慢です。そんなふうにおしゃべりをしているから、なかなか仕事もはかどりません。ガテラはそれに対しては黙っていません。彼のまなじりもつりあがり始めました。最後に「しっかり働いた人には靴をプレゼントする！」それを聞いてピタッとおしゃべりをやめ、急に働き始めるおじさんと若者。

日当を払い終えて、靴を配る時間となりました。前もってみんなの靴のサイズを聞いておき、パトリックたちが倉庫から見繕ってきています。これらの靴は数年前日本の学校の生徒たちに寄付してもらったものです。多くは体育館履き。でも体育館履きの中には適当なサイズもなく、立派な皮靴も含まれています。

靴を配るパトリック。みなさん、一列に並んで、うれしそうです。

名前を呼ばれて靴を配る。みんな今まではいていた小汚い草履(ある人は裸足)を脱ぎ、さっそく履いてみる。明らかにぶかぶかであるにもかかわらず、皮靴を選んだ人は「これこそ俺のサイズだ」と脱ごうとしません。それを見て怒るパトリック、「そんなぶかぶかの靴はだめだ。こっちの運動靴にしる」他の人からもヤジが飛びます。「その皮靴はこっちの長老に渡せ。お前はこの運動靴で充分だ」などなど。

さて靴を履いた皆さん。なぜか鼻の穴が膨らんで得意そう。そしてこれもなぜかちょっとがに股気味に大きな歩幅で歩いています。これって嬉しいからでしょうねえ。中には初めて靴を履いたというおじさんも含まれていました。みんなにはやし立てられ、恥ずかしそう。

その日はガテラもお疲れさんと言う意味も含め、皆さんにビールを奢っていました。そして帰る時、その靴を履いて帰るのかなと思ったら、みんな大事そうに抱えて帰って行きました。そんな素直な人たちが愛おしいです。



ルワンダ事務所代表ガテラより

【旅・余暇・仕事】

毎日忙しいながらも、充実した日々を送っています。これも皆さんのおかげです。ありがとう。

しかしそんなふうに忙しくしていると、時々真美が「仕事を離れて、どこか息抜きに行こう。その時は仕事の話は一切なしで」と言う。

その気持ちもわからないでもない。しかし、不可能である。例えばそのつもりで旅行に出たとしよう。ひなびた温泉でも、南の島でもどこでもいい。そこで必ず誰かに出会う。出会ったら当然自己紹介をする。私の場合「名前はガテラです。ワンラブ・プロジェクトと言うNGOを作っています。ルワンダで障害を負った人たちに義足を作ったり、職業訓練をしたりしています」と言う感じで始まる。

相手も同じように自己紹介をする。「私は鈴木太郎です。ソーラーの会社で働いています」などと言ってしまったら、

もうおしまい。仕事の話はなしで...と言うことが不可能になる。「ほう、そうですか。実はルワンダで働いている場所は、とても広く、電気代も馬鹿にならないのです。ソーラーがあれば、電気代も随分節約できるでしょうね。実はソーラーを導入できないかと考えていました」と始まる。人と出会うということは、その後の広がりをもとんとん作っていくということである。

そして誰とも会わなかったとしても、仕事の話一切抜きは不可能である。私と真美が出会ってから、もう20年になる。その間の多くはワンラブ・プロジェクトと言うものが関わっている。何を話そうとしても、最終的にはスタッフの悪口(!)であったり、次の作戦はこうだとか、どうやってその資金を集めていくかと言うことになってしまう。

だからどんなに彼女が泣いて叫んで、仕事抜きで南の島のリゾートだ! トロピカルドリンクだ! 温泉三昧だ! と言っても、無理なのである。

自分の体が動くうちは、仕事を続けていきたい。人と出会う限りは、その後の可能性を広げていきたい。人生とか仕事って、そんなものでしょ?

だから真美さん、無駄なことは言わない方が良いでしょう。もうあきらめなさい。

紹介します！ワンラブのスタッフ

日本で研修を受けたディアネのその後です。

彼女は素直な女性です。擦れたところもなく、一生懸命ワンラブに戻って働いてくれています。そんな彼女に、ガテラは倉庫管理の仕事を与えました。時々スタッフたちは義足の材料を大切に使うくれません。だから材料の管理はとても大切な仕事です。彼女の素直さと真面目さを見込んで与えられた仕事です。そしてその仕事と共に、お金の管理の仕事も増やしました。これは運営しているゲストハウスに入ってくるお金と消耗品などを買うためのお金の管理です。利益が上がれば、それを銀行に持っていくということも含まれています。簡単な仕事のようにですが、なかなかこれらの仕事を責任もってしてくれる人が見つからなかったのも事実です。

材料の在庫整理もディアネと二人でやりました。いろいろな種類の材料があるので、簡単なことではありません。彼女のやり方で感心したのは、掃除をしながら片付けると言うこと。日本だと当たり前のことのようにだけれど、なかなか今までスタッフで自主的に掃除をしながら作業を進める人がいませんでした。だからみんなが数を数えている間、私が掃除をしたり…。別に威張るつもりではないのだけれど、私が掃除をしてはいけないと思いつつながら…。

でも彼女は自分からほうきを取り出し、掃いています。倉庫の中は埃だらけです。彼女の年齢だと、そんな汚い仕事をしながらなくても無理はない。実際ルワンダの小奇麗な女性は、こっちが怒鳴っても「そんな私の仕事ではない」と掃除をしようとしなくていいこともしばしば。だから彼女の自然な姿に感激し、彼女を育てた人たちのしつけの良さを感じました。

まだ他のみんなよりも年齢が若いこともあり、みんなの材料の使い方の悪さに意見を言いたくても言えないこともあるようですが、そんな時も相談してくれます。

そして今年に入り、彼女は4時に仕事を上がり、学校に通うようになりました。夜間の学校です。仕事と勉強、両立は大変だと思うけれど、毎日遅刻もせず、がんばっています。

日本を離れてもう1年が経ちました。でも今も日本語の勉強をしているそうです。私にも「おはようございます」と日本語で話しかけてくれます。なぜ、まだ日本語を勉強しているか？それは再び日本で勉強をしたいからだそうです。日本を訪れ、日本を知り、更に勉強したいと願っています。インターネットを使い、いろいろと日本の大学の情報を集めているようですが、なかなか奨学金をもらって勉強できるという場所を見つけられないでいます。

彼女が勉強したいのは経済。どなたか彼女が挑戦できるチャンスを見つけてもらえないでしょうか？情報があったら教えてください。お願いします。



Special Thanks

2008年は、2つの大きな賞を受賞することができました。

10月、第一生命保険相互会社が主催する、「60回 保健文化賞」を頂きました。この賞は、昭和24年、戦後の感染症や、栄養不足が大きな問題だった時代に創設され、「保健衛生および関連する福祉等の分野」で活動をする、個人・団体に贈られてきました。2008年が60回目という大変歴史ある賞です。

授賞式では、この60年を振り返る映像が、流されました。結核により、多くの人が苦しんだ時代。妊娠・出産の際に、亡くなる女性が多かった時代。その一つひとつに、

それぞれの分野の方が奮闘され、問題を解決していき、「今があるんだ」と、とても感慨深い気持ちに。今日当たり前にあるすべての物に、本当に感謝です。

ルワンダ・ブルンジも、今は沢山の問題がありますが、数十年後は、



立派な盾を頂きました。

「そんな時代もあったんだな。」と思える時が、きっと来る。そのために、がんばるんだ！と励まされた授賞式でした。

もう一つの賞は、エイボン女性賞、11月に頂きました。主催は、エイボン・プロダクツ(株)です。エイボンが、お化粧品の会社という事もあり、「社会的にめざましい活躍をし、功績をおさめている女性に贈られる」賞です。授賞式当日、なんと受賞者は、お化粧をして頂けるとの事！普段、ほとんどお化粧しない、紫外線浴び放題の生活からすると、とても緊張。写真を見て、いつもと違う自分の顔に、いやはや、びっくりでした。

2つの賞に関わってくださった、すべての方。そしていつも応援して下さる皆さま。いつも働いてくれる、ルワンダ・ブルンジのみんな。本当に、ありがとうございました。



<当日は、ルワンダ大使ご夫妻も来て下さいました。左は、エイボン社長の、ムアヘッド氏>



日本事務所より

【書き損じはがき、ありがとうございます。】

またまた、みなさんありがとうございます。お正月が過ぎ・しばらくして、続々と書き損じはがきが届きました！今回はお正月前に、ワンラブ通信を発送する事ができず、書き損じはがきの募集のお知らせが出来ませんでした。そのため、あまり来ないかも・・・と書いていたら大間違い。みなさん覚えていて下さったんですね。2008年9月1日～2009年4月30日までに届いたはがきの数は、なんと1539枚！！どっひゃ～。数枚を送って下さった方、団体・学校で集めて下さった方。みなさんの力が集まり、こんなにたくさんのハガキが集まりました。本当にうれしいです。他にも、テレホンカードを送って下さった方、切手を送って下さった方、一つひとつ大切に使用して頂いております。みなさん、ありがとうございます。そして、これからも、お掃除をした際などにハガキ・未使用切手・未使用テレホンカードを発見しましたが、ワンラブまで。どうぞよろしくお願ひします。

2008年9月1日～2009年4月30日までに届いた
ハガキ・未使用切手・未使用テレホンカードの合計金額
約 8万2651円

41円ハガキなども集めてますか？と質問を受ける事があります。答えは集めてます！金額を問わず、集めていますので、よろしくお願ひします。

【感想お待ちしております。】

ワンラブ通信の感想・要望・ルワンダ・ブルンジのこんな事が知りたい！などありましたら、メール・お手紙・振込の際の用紙の通信欄等をなどで教えてください。今後の参考にさせていただきます。よろしくお願ひします！

【おことわり】

- * 発送作業の都合上、振込用紙を必ず同封させて頂いておりますが、すべての方に寄付金・会費を催促するものではございません。
- * 当団体はご提供いただいた個人情報について、皆さまからご同意頂いた場合や、正当な理由がある場合を除き、第三者に公開、提供することはございません。

書き損じハガキ、テレホンカードは下記、茅ヶ崎事務所までお送りください。ご寄付は下記の口座まで、みなさまのご支援お待ちしております。

事務の簡素化と経費節約のため、領収書は省略させて頂いております。

必要な場合は、振込用紙の通信欄に「要領収書」とご記入ください。

〒253-0051 茅ヶ崎市若松町12-8 コーポ原202 :080-6564-4448 FAX:0467-86-2072

e-mail: info@onelove-project.info(日本事務所) onelove@rwanda1.com(ルワンダ事務所)

郵便振替口座：00210-5-66497

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

【アフリカン・フェスタ2009に参加します】

毎年日比谷で開かれていた、アフリカン・フェスタですが、昨年同様、今年も横浜で開催される事が決定しました。ワンラブも2回目の参加となります。去年はどここのブースも大賑わい。珍しい食べ物に、各国の雑貨、みなさん日常とはちょっと違う雰囲気を楽しんでいました。今回、真美・ガテラは、日本不在のため、参加できませんが、現地で作っている義足等も展示しますので、ぜひ皆さんお出かけください。

アフリカン・フェスタ2009

5月16日(土曜日)・17日(日曜日)

時間：16日 12:00～17:00

17日 11:00～17:00

場所：横浜赤レンガ倉庫イベント広場 及び
赤レンガ倉庫1号館2階・3階

ブース番号：D-52

ワンラブはブースにて展示・民芸品等の販売を予定。

公式HP <http://www.africanfesta2009.com/>

【アフリカ映画デー in 横浜が開催されます】

アフリカが語るアフリカをテーマに活動している、シネマアフリカ実行委員会が、アフリカ映画デー in 横浜を開催します。注目は、ルワンダから届いたドキュメンタリー「イセター道路封鎖の背後で」(仮称)。日本初上映。チャンスがある方は、ぜひお出かけください。

イセター道路封鎖の背後で(仮称)

「虐殺の現場を撮影した唯一のジャーナリストが、14年後、映像に写った人々の村を訪れる。突如現れた当時の真実を語る映像に、村には大きな衝撃が走る。今だ罪を否定する加害者、癒えない傷を抱える遺族や村人が一同に会し問題の映像を見るが・・・。」シネマアフリカ web サイトより

アフリカ映画デー in 横浜

5月22日(金曜日)・24日(日曜日)

場所：横浜ランドマークホール

公式HP：<http://www.cinemafrica.com/>

主催：シネマアフリカ実行委員会

ワンラブ通信 40号 2009年5月

発行：ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

<http://www.onelove-project.info>



One Love
Mulindi Japan One Love Project

